

## つながることで防犯を

島根県島根大学教育学部附属義務教育学校 9年 川合 康太



ニュースの報道で、少年が関わる犯罪が報じられることが時々あります。中には、耳を疑いたくなるような内容のものもあり、自分とあまり変わらない年代の人たちが、どうしてそのような犯罪を犯してしまったのか疑問を感じてしまうこともあります。ただ、普段は、それ以上深く考えることはあまりありませんでした。

僕は今、学校の生徒会長を務めています。生徒全員が自分の思いや考えを自然体で出せるような学校、互いを思いやり、明るく笑顔の絶えない学校を目指して様々な活動に取り組んでいます。

具体的には、生徒会を中心として、全校に呼びかけて校内の壁の塗り替えを行ったり、生徒会執行部で池の清掃を行ったりもしています。

そして、活動の一番の柱は、あいさつ運動です。あいさつは、人と人をつなぐ一番大切なもので、いつでも、どこでも、誰にでも取り組めるものだと考えて重点的に取り組んでいます。朝、登校して来る生徒の皆さんにも活動が徐々に浸透し、笑顔であいさつを返してくれる人が増えてきたように感じています。

このような地道な活動を続けていくことが、人の心を豊かにし、きっと何かの役に立つと信じているのですが、それだけでいいのだろうか、他に何かするべきことはないのだろうかという思いも時々わいてきます。

そんな時に、初めのところで触れたような事件や事故の報道に接すると、何か社会全体として考えたり、取り組んだりしていく必要があるのではないかと強く感じるようになりました。

僕は、今の日本の社会が抱えている大きな問題の一つに、人と人とのつながりの希薄さが挙げられると考えています。

現代社会は、SNS等のネットワークやメディアによって、家に居ながらにして世界中の情報を瞬時に得ることができます。便利な一方で、情報を正しく判断し利用する力も必要とされています。また、情報発信する場合も、様々な点に留意して発信する必要があり、間違えると大きなトラブルにもなりかねません。まだ社会経験や十分な知識がない状態で安易に考えて行動すると、取り返しのつかないようなことが起こる可能性もあります。僕たち若い世代は、そのことを十分に認識しておく必要があると思います。

ただ、そのことは、若い世代の人だけで解決できることではなく、むしろ、大人の世代が法律の整備を含めた対策を行う必要があるのではないかと思います。

す。

実際に「ネットパトロール」のような取り組みも進んでおり、「個人情報の保護」や「表現の自由」等への配慮は必要ですが、必要な取り組みだと感じています。また同時に、「自分の意見には責任を持つ」ということが明確化され、「権利」や「自由」の裏には、「義務」や「責任」が伴うことを広く周知し理解できるような取り組みが必要ではないでしょうか。

また、人と人とのつながりを深める上では、やはり地域社会が果たす役割がとても重要であると思います。今年の夏も全国各地で大きな災害が起きました。そのような時に、真っ先に頼りになるのは、本来、近所の住人の方であったり、地域の方々であったりすると思います。そのような絆が深まれば、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことが可能となり、青少年の犯罪防止にもつながっていくと思います。理想論だけではなく、具体的な取り組みが今、求められていると思います。

これまで述べてきたことは、ほんの一部にすぎないと思いますし、それが最善の策であるかどうかはわかりません。ただ、中学生である私たちの世代や若い人たちが、日本の明るい未来について真剣に考え、議論していくことが大切だと考えています。

僕もその一人として、自分自身にしっかりと問いかけ、友達と語り合い、出来ることから始め、行動していきたいと思っています。